

無憂樹

令和7年2月号

浄尊寺
熊本市西区田崎
1-4-39
TEL・FAX
096-354-6530



『いのちのバトン』

年が明けたと思っただらもう2月になりました。よく2月は逃げると言われますが、あつという間に過ぎていかなないように1日1日を大切に過ごしていきたいものです。

今年も1月2日・3日に箱根駅伝が開催されました。東京から箱根までの距離を往路5区間、復路5区間の計10区間を大学生の選手が走ります。今年で101回目の開催になるそうです。私も毎年箱根駅伝を楽しみにしている1人です。



駅伝はマラソンとは違い、1本の襷をつないでいく団体競技です。前の選手から次の選手に襷を渡す場面がよくテレビ中継されます。前の選手は汗だくで、涙をうかべて渡す選手もいます。受け取る次の選手もそんな前の選手の思いや、色々な方々の思いがこめられた襷を受け取り走りだします。今年も箱根駅伝に多くの感動をもたらしました。走り終えた選手の

インタビューを聞いていると「足がどうなつても良いから、全力で襷をつなげたかった」というような言葉を聞くことがあります。すが、本当に命がけの襷です。

詩人で相田みつおさんの詩を思い出します。

『自分の番』

いのちのバトン

父と母で二人
父と母の両親で四人
そのまた両親で八人
こうしてかぞえてゆくと
十代前で千二十四人
二十代前では一〇〇〇〇？
なんと百万人を超すんです
過去無量の

いのちのバトンを受けついで

いまここに

自分の番を生きている

それが

あなたのいのちです

それがわたしの

いのちです』

考えてみれば私のいのちは過去無量のご縁の中で生かされているいのちです。その中で誰か1人でも欠けていたら、私のいのちはなかった……本当にいのちがけでつないでくれたご恩があります。しかし、なかなかそこに気づけずに、自分のいのち自分で生きていると思ひ生活してはおりませんでしょうか。だからこそ仏さまの前に座らせていただきましょう、なによりの御恩報謝です。